

ローカルファンドのつくり方セミナー コレクティブインパクト的なローカルファンドづくり

分析フェーズを踏まえた
事業計画策定のポイント



一般社団法人全国コミュニティ財団協会



一般社団法人全国コミュニティ財団
事務局長

いしもと たかゆき
石本 貴之

大阪出身。民間企業等を経て、2014年に新潟に移住。中間支援組織の事務局長、代表理事を歴任し、現在、地域内の資金循環の仕組みづくりを支援する「一般社団法人全国コミュニティ財団協会」のほか、小規模多機能自治・地域運営組織を支援する「NPO法人まぢラボ」代表理事、新潟こども食堂・居場所ネットワーク「にこねっと」事務局などを務める。日本評価学会「認定評価士」。総務省「地域力創造アドバイザー」。



一般社団法人全国コミュニティ財団
担当理事

ほうらく みちひろ
宝楽 陸寛

公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団代表理事。
1982年大阪府河内長野市出身。ビジネスからボランティアまでNPOや市民の活動のコーディネーターとして活動。
特に南大阪を中心にNPOや市民と行政、企業、大学、金融機関が協働し地域課題を解決し、人やまちが元気になるコミュニティづくりに携わる。泉北ニュータウン50周年を機に、主に30-40代が中心となりコミュニティ財団「公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団」を立ち上げ、「温かいお金」が地域でまわる仕組みづくりを行っている。また、社会課題解決のためのICTアワード実行委員長をつとめ、ICT×社会課題解決の実践も進めている。近年では全国コミュニティ財団において各地の災害時の地域特化したクラウドファンディング体制の整備に携わる。

- ① コレクティブインパクト的視点からコミュニティ財団事業を構築していく方法を学びます。
- ② 特に、コミュニティ財団設立プロセスにおいて重要な「分析フェーズ」から、地域内での「共有フェーズ」を具体的な手法を学びます。
- ③ 以上を通じて、各地にコミュニティ財団が増え、資金仲介組織として自律的に経営し、持続的に地域課題解決に貢献する地域を増やす仲間の増加をめざします。

市民コミュニティ財団設立におけるコレクティブインパクトプロセス

コミュニティ財団設立プロセスはその設立過程において地域にとってのコレクティブインパクトプロセスを経ていると考えています。特に「分析フェーズ」から、地域内での「共有フェーズ」が重要です。



支援中の団体のケースも紹介しながら、「市民コミュニティ財団」設立に重要なポイントをお伝えしていきます。

団体名称	対象地域
公益財団法人えひめ西条つながり基金	愛媛県西条市
公益財団法人あくるめ	石川県加賀市
一般財団法人ひだ財団	岐阜県飛騨・高山エリア
認定NPO法人NPO高知市民会議	高知県
公益財団法人ほくりくみらい基金	石川県
一般財団法人たかまつ讃岐てらす財団	香川県
ぐんま未来基金準備会	群馬県
みんなでつくるまちづくり財団HATA！ 設立準備印階	高知県幡多郡

一般的な

コレクティブインパクトモデル

- ① 共通のアジェンダ
- ② 共有された評価・測定システム
- ③ 相互に強化し合う取り組み
- ④ 継続的なコミュニケーション
- ⑤ 取り組みを支える組織

+ エクイクティ（構造的不平等の解消）

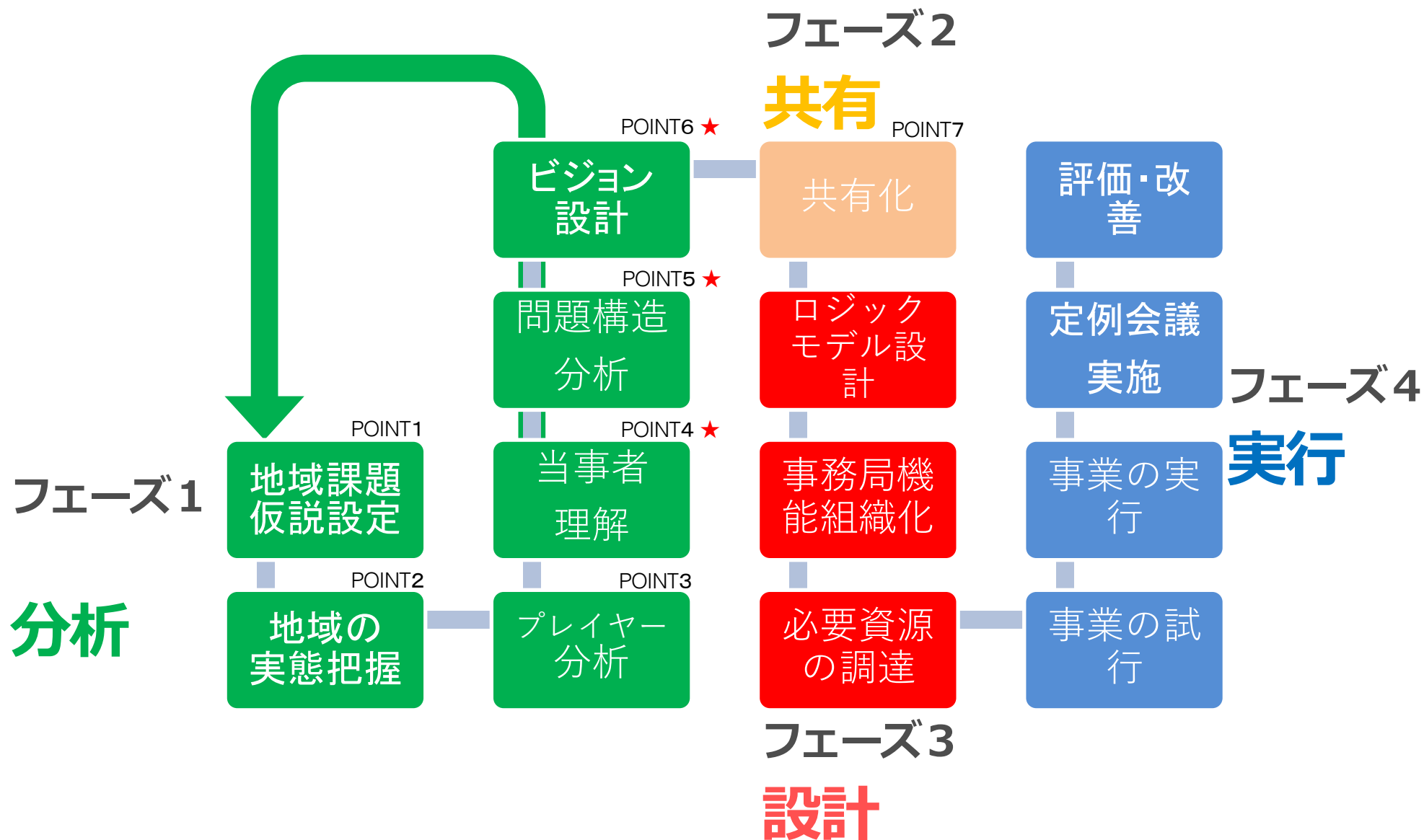
コミュニティ財団的な解釈に基づく

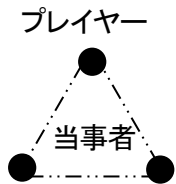
コレクティブインパクトモデル

- ① 共通のアジェンダ
→ 地域の未来像・地域課題の構造化
- ② 共有された評価・測定システム
→ エコシステム形成
- ③ 相互に強化し合う取り組み
→ 資金仲介
- ④ 継続的なコミュニケーション
→ コミュニティ財団
- ⑤ 取り組みを支える組織
→ コミュニティ財団

+ エクイクティ（構造的不平等の解消）

市民コミュニティ財団設立におけるコレクティブインパクトプロセス

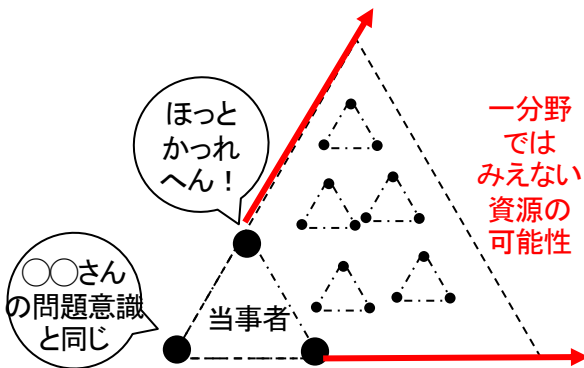




地域をよって
変えようと思っても
孤独

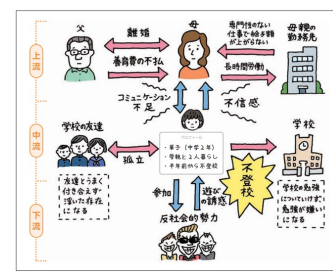
優先順位
はそこじゃない
と言われる

つながり
が偏っている



同じ視点の
仲間がいると
気づく

課題構造図での把握

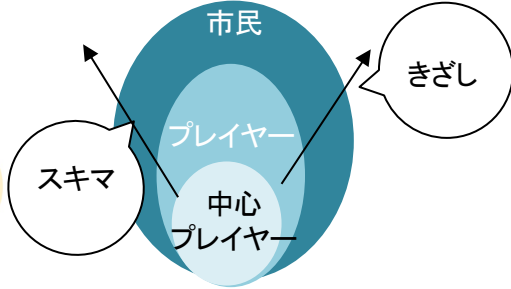


課題意識を
見える化する

取り組むべき市民目線の解決策が共有



課題解決の視点が共有され財団設立と共通アジェンダ化加速



地域課題を
新たに定義
し直す

コレクティブインパクト的なローカルファンド設立21の問い

あくまでフェーズとポイントは目安です

フェーズ

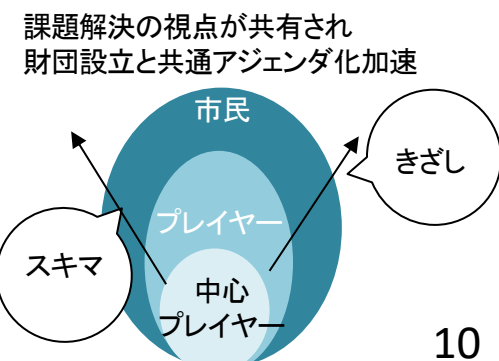
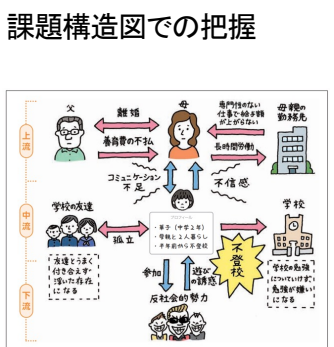
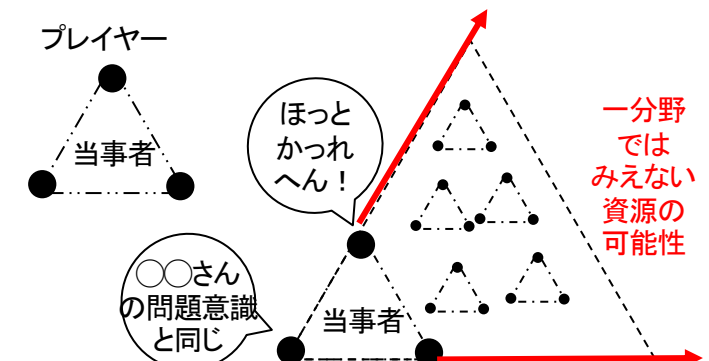
意識

深めるための問い

起こる変化



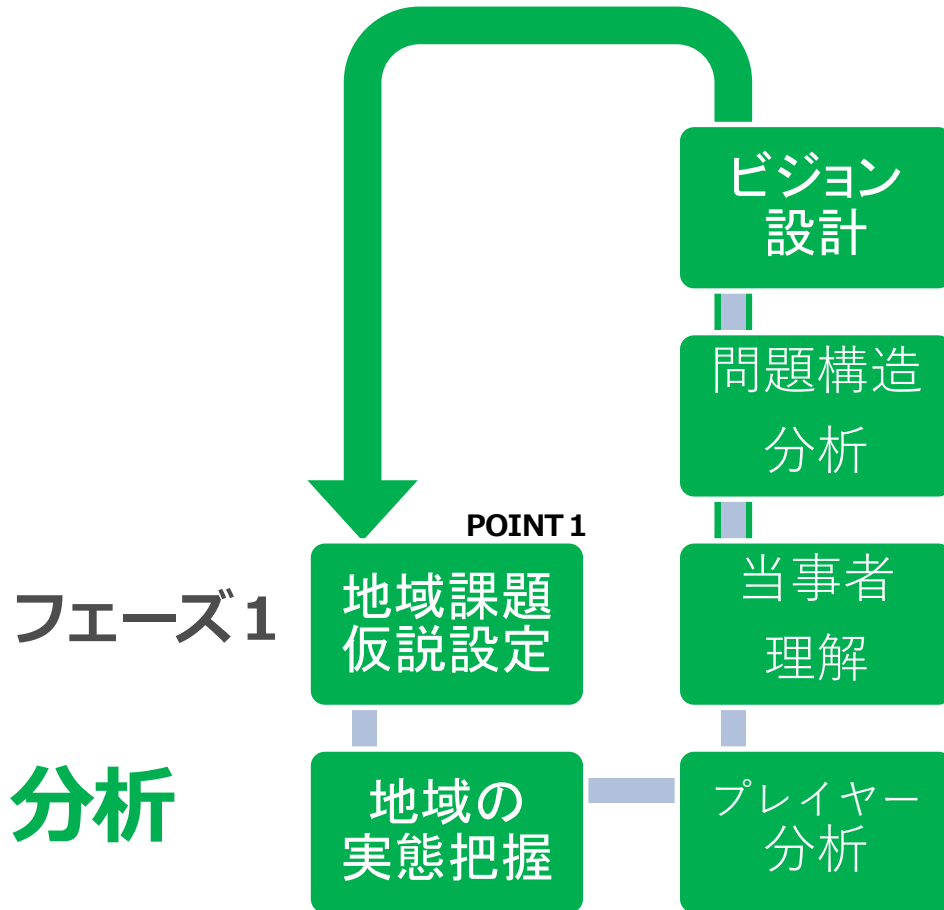
POINT1	POINT2	POINT3	POINT4 ★	POINT5 ★	POINT6 ★	POINT7
地域課題仮説設定	地域の実態把握	プレイヤー分析	当事者理解	問題構造分析	ビジョン設計	共有化
設計						
仲間集め			共有しながら広げる			
下ごしらえ			仲間で取り組む			
<p>地域や社会に届いていない声は誰の声か？</p> <p>それはエリアや地域のどこに影響を及ぼしているか？</p> <p>市民からの共感性の高い寄付がなぜ必要なのか？</p>	<p>地域の強み・資源は何か？</p> <p>現状の地域の課題のトピックは何か？</p> <p>現状の地域の課題解決での地域内の関係性の状態は？</p>	<p>やり抜きたい & やり抜けそうな仲間が3人いるか？</p> <p>同じテーマに取り組むプレイヤーを把握しているか？</p> <p>プレイヤーの「強み」「課題」「関係性」を把握できているか？</p>	<p>「高優先度の当事者特定」ができていますか？</p> <p>当事者の声を聴き、実態を調べられているか？</p> <p>本当に地域の本質的なニーズに沿っているのか？</p>	<p>問題の下流～上流までを把握しているか？</p> <p>誰もが繰返す地域の本質的なニーズに沿っているか？</p> <p>その問題構造を支えている他プレイヤーの守備範囲は？</p>	<p>地域での機運醸成のための共有するキーワードは適切であるか？</p> <p>キャンペーンに集う中心プレイヤー選定は適切か？</p> <p>システム全体を体感+理屈で理解・共有できる機会は用意されているか？</p>	<p>準備会の設計は適切か？</p> <p>共感を広げるための取り組みは適切か？</p> <p>関係人口が広がる設計になっているか？</p>
<p>地域特性に応じた、市民コミュニティ財団運営体制を構築します。</p>						



今日の 大切な学び

すでに
コミュニティ財団を
地域で立ち上げようとする仲間による
分析フェーズを踏まえた
事業計画策定のポイント
を解説します

フェーズ1 分析



1-Q1
地域や社会に
届いていない声は
誰の声か？

1-Q2
エリアや地域の
どこに影響を
及ぼしているか？

1-Q3
市民からの
共感性の高い寄付が
なぜ必要なのか？

地域や社会に届いていない声は
誰の声か？

(コミュニティ)財団とは
何かを変えたいと望む
世界中の人たちにとっての
リソース



Ms. Susan Berresford
Ford Foundation President 1996-2007

●忘れられがちなのは、
実際に問題に直面している人達

問題解決のためには、そんな人たちの積極的な参加が必要。しかし同時に、誰もが政府の政策担当者に影響を与えたり、資金をもっていたりするわけ ではない。だから、財団のプログラム・オフィサーは資金調達を助け、現場 の声 が政策担当者に届くようにし、研究や調査活動、試行的活動等を支援することで、議論に説得力を持たせられる。問題解決には、様々なレベル 取り組む必要がある。

コミュニティ財団の
重要かつ伝統的な役割
3つの脚（柱）+ 1



1. 資産形成 (Asset Development)
 2. 資金提供 (Grant Making)
 3. 地域社会におけるリーダーシップ (Community Leadership)
- + 融資や投資の活用
(program-related investment)

15-25歳を過ごす
女性たちのSOS

地域や社会に
届いていない声は
誰の声か？

共感者と共に育てる、女性×若者の基金

かがじょ 基金
KAGA JOJOJO FUND

石川県加賀市で15-25歳を過ごす女性たちのSOSに気付き、健康で、孤立せず、尊重されて過ごせる地域であるために。彼ら自身が「未来は明るい」と希望をもてる社会ってどうすれば実現できるのか？という問いから生まれました。

エリアイメージ

エリアや地域の
どこに影響を
及ぼしているか？



ほくりくみらい基金
Hokuriku Mirai Foundation

人口減少、格差の固定化、気候変動など、わたしたちの社会は大きな変化を迎えています。“これまでのやり方”でいいのだろうか、もっとこんな風に生きたい、働きたい、学びたい・社会を変えたいという思いから石川県・北陸を対象としました。

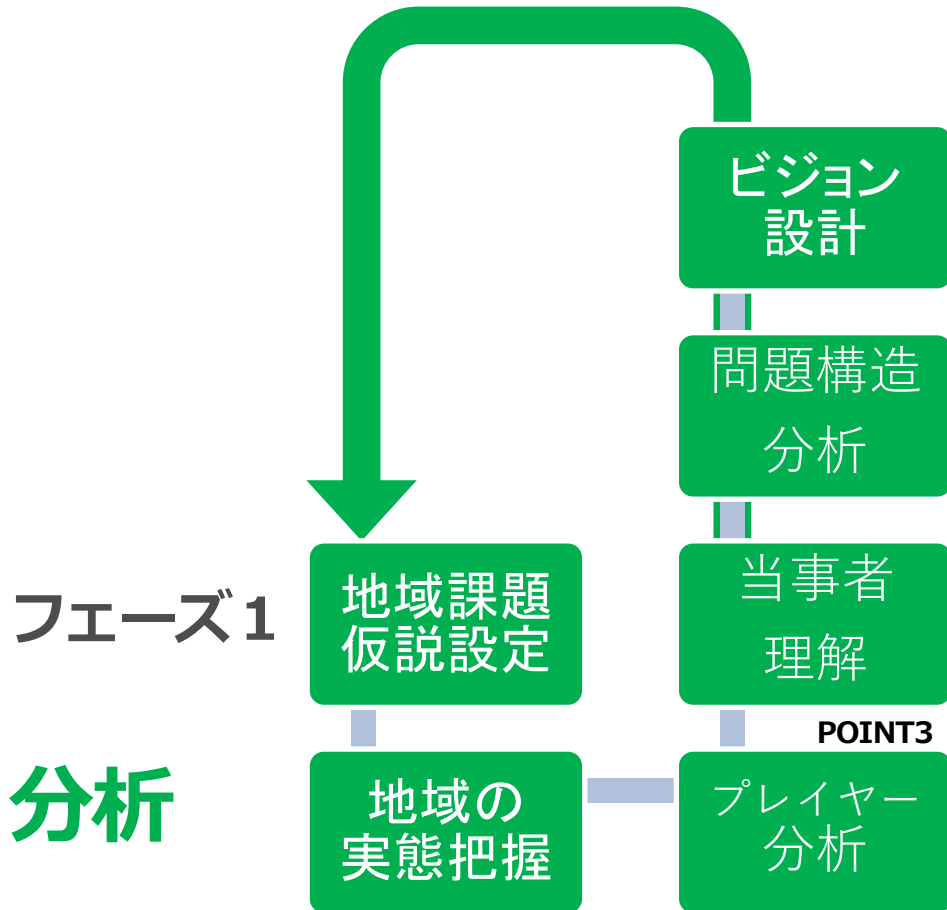
このスキマは誰が埋めるのか？

市民からの
共感性の高い寄付が
なぜ必要なのか？



地域における手つかずの「スキマ」の拡大に着目。スキマは行政だけではなく民間の企業や住民も積極的に解決のために動かないといけない！その結果、シビックプライドが醸成され「自分たちのまちは自分たちで守る」というまちに。

フェーズ1 分析



3-Q1
やり抜きたい
&やり抜けそうな
仲間が
3人いるか？

3-Q2
同じテーマに
取り組むプレイヤーを
把握しているか？

3-Q3
プレイヤーの
「強み」「課題」「関
係性」を把握できてい
るか？

天
^
地
^
人

①社会・地域でのムーブメント・機運・盛り上がりはあるか？

例)

- ・象徴的な事件・事故があり表面化して注目されている
- ・議会で取り沙汰されている
- ・経営資源（ヒト・モノ・カネ）が得やすい流れがある など

②本当に地域の本質的なニーズに沿っているのか？

例)

- ・合意された地域ビジョン（地区計画）に則したものである
- ・全住民アンケートの結果、「重要度は高い&満足度は低い」テーマである
- ・類似地域に比べて、明確に課題の深刻度が高い など

③それをやり抜きたいかつやり抜けそうなリーダーがいるか？

例)

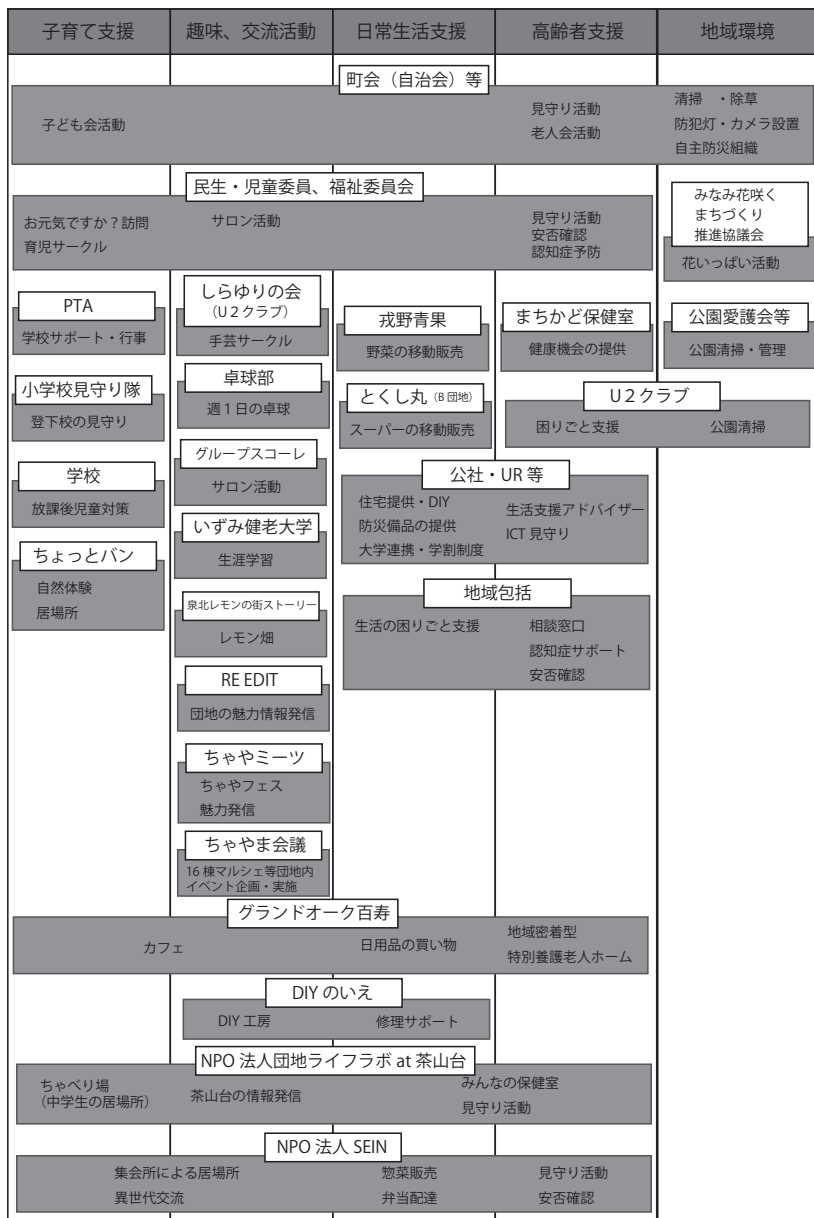
- ・（自組織内外問わず）当該テーマを5年以上は継続的に取り組むことに覚悟を持っている
- ・すでに3年以上は当該テーマに取り組んでおり、一定以上の専門性と人脈を有している
- ・「科学（データに基づくマネジメント）」と「対話（ダイアログ、ファシリテート、コーチングなど）」が高いレベルで統合されたリーダーシップを発揮できる（したい） など

- 1.すべてが満点である必要はないが、3つとも一定以上はそろっていなければ、プロジェクトの組成は再考する。
- 2.人>地>天の順で大事。これは意図的につくることが難しい順。

POINT 3

同じテーマに取り組むプレイヤーを把握しているか？

■NPO、町会（自治会）等の活動内容



当事者の声を聴き、実態を調べられているか？

「隠れたサービス・機能」の発見

- 地域商店や診療所が家まで送迎
- 郵便局の人がお金をおろしてくれてた
- 集荷業者により農業が継続できる
- 会員同士による助け合いサービス
- 移動販売者が来ている
- 灯油を小分けにして届けてくれる

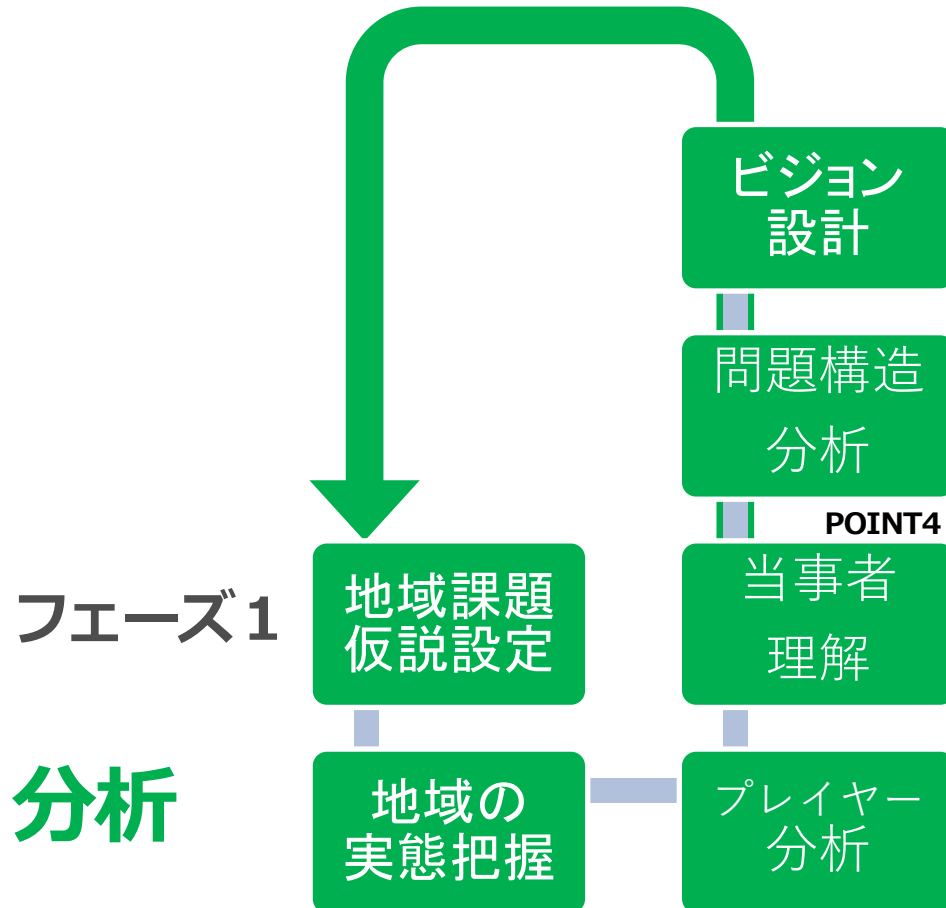
©NPO法人みんなの集落研究所

POINT 3

それらの「強み」「課題」「関係性」を把握できているか？

	自団体	他団体	行政	企業	地域	教育機関	金融機関
名称							
ビジョンミッション							
主な対象							
サービス							
強み							
課題							
他主体との関係性							

フェーズ1 分析



④—Q1
高優先度の当事者特定
ができているか？

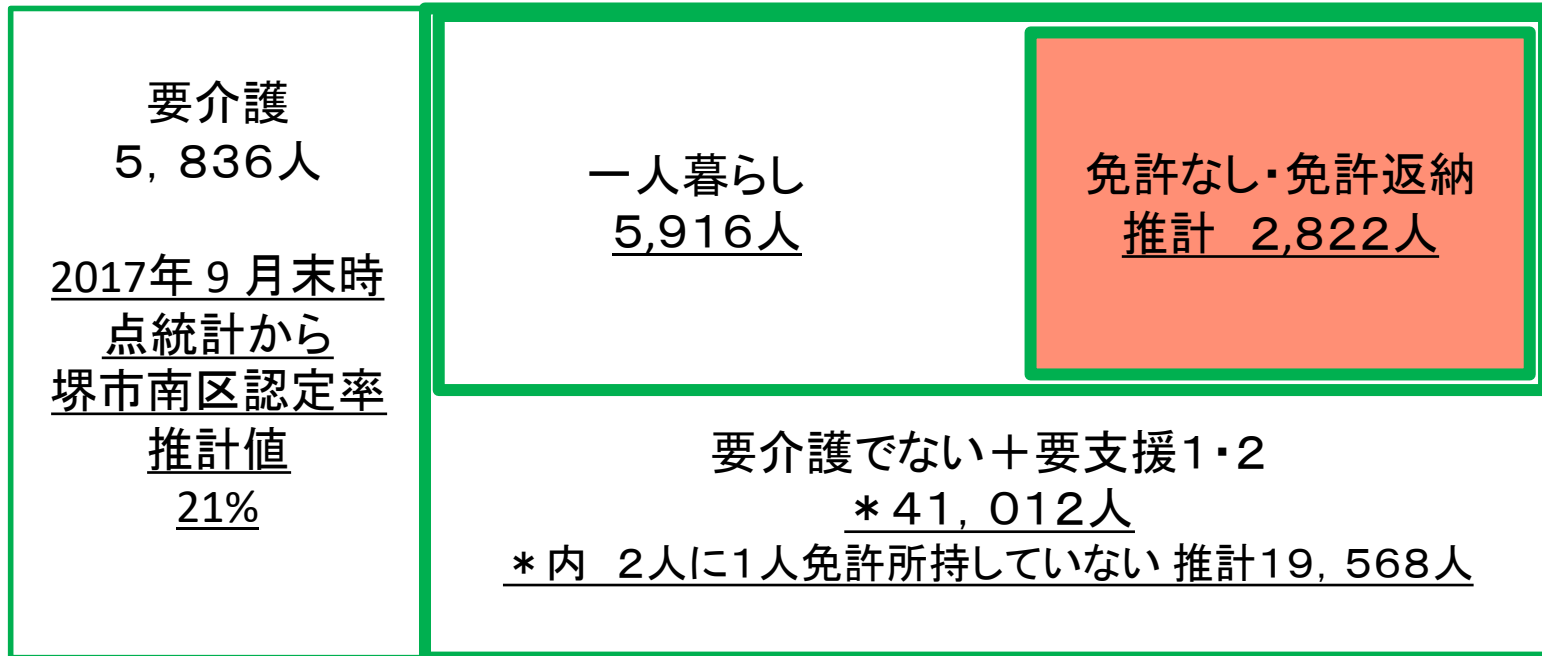
④—Q2
当事者の声を聴き、
実態を
調べられているか？

④—Q3
本当に地域の本質的な
ニーズに沿っているの
か？

高優先度の当事者特定ができていますか？

ニュータウンにおける買い物難民の実態

- ① 高齢者（65歳～）で
- ② 介護の必要がない方及び要支援1・2の方で
- ③ 食料品・日用品等の日常の買い物が困難又は不便な状況に置かれている方々が対象と想定しました。



- ▶ 現在免許を持たない多くの高齢者は「おでかけ応援カード」でバスでの移動を積極的に活用されており、元気に買い物できる環境がされている
- ▶ 実は、多くの高齢者の方が、要介護でない+要支援1・2であり買い物難民の再定義が必要

石嶺地域 徘徊リスク高齢者

- ・地域人口：20,000人 認知症1, 2：700人
- ・認知症進行度（1-2A-2B-3A-3B-4-M）県民1/28人を元に算出
- ・各象限の人数と％を埋める4つの枠のペルソナ（代表的一人）を抽出する。
- ・社会的孤立度 過去1週間で家族以外の高齢者と会話した数

○パーセント □名 認知症（3, 4、 M） 介護保険対象	○% □人	○% □人 Cさん	○% □人 Aさん	高 社会的 孤立度
	○% □人	○% □人 Dさん	○% □人 Bさん	
	3人以上	2人	独居	低
	多←世帯人数→少 認知症（1、2） 700人			

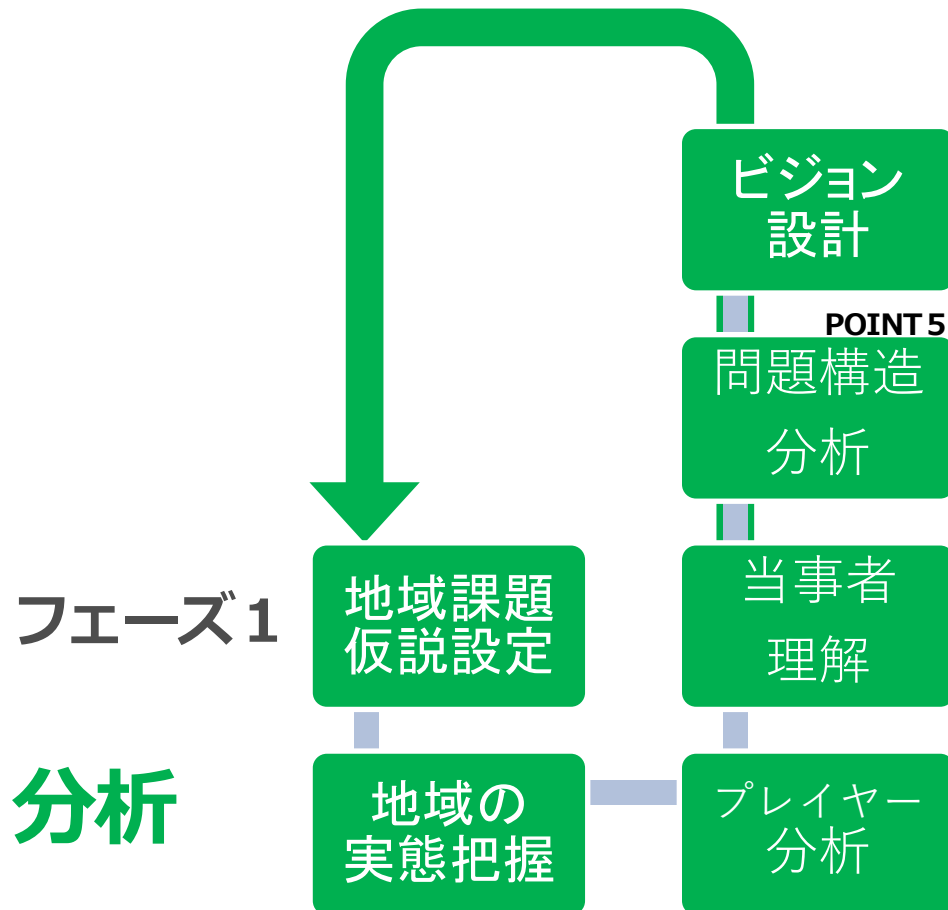
沖縄における 徘徊リスク高齢者の課題

- 認知症の方々に症状の軽い方々は概ね在宅介護となりつつある(県内39,000人超)
- その中で徘徊リスクのある方々は今回の実証地域那覇市首里石嶺地区(人口2万人)で20~30人、那覇市においては300~400人程度が対象者だと推察される。ソースはケアマネジャーのインタビューによる。
- 警察とのヒアリングで判明したこととしては、徘徊時の対策は初動が大事だということ。以下は警察に届けられた認知症由来と思われる行方不明者の搜索結果

届け出数	その日でみつかる	2~7日	8日以上
102件	57件	42件	3名
	全員無事	死亡1人	死亡3人

- より正確な位置情報を得られるGPSはプライバシー保護の観点から嫌がられる。

フェーズ1 分析

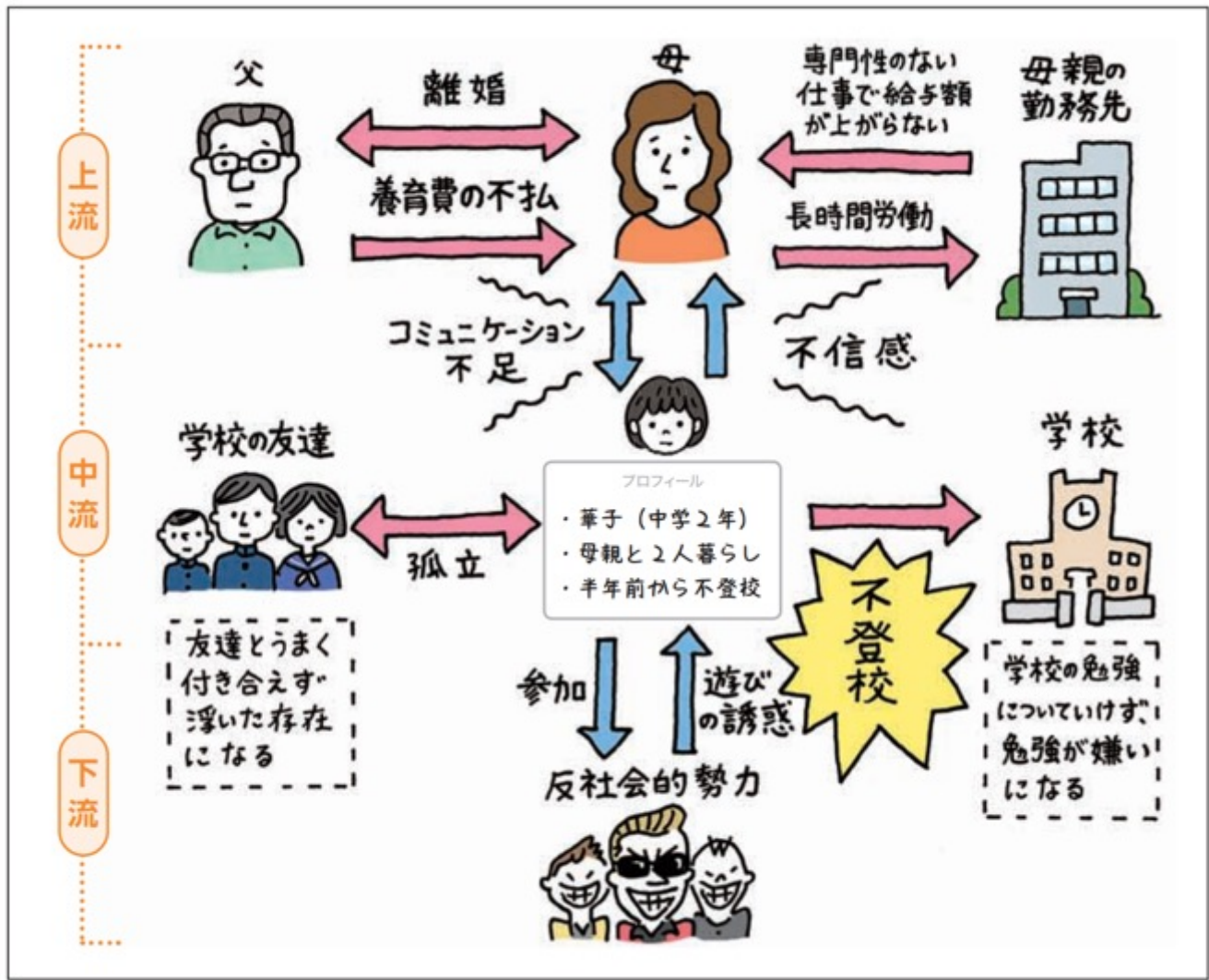


⑤-Q1
問題の下流～上流までを把握しているか？

⑤-Q2
誰もが繰り返す
地域の本質的な
ニーズに沿っているか？

⑤-Q3
その問題構造を支えている
他プレイヤーの守備範囲は？

問題の下流～上流までを把握しているか？



上流(源泉)

主な原因はなにか？

中流(河川)

どのように顕在化しているか？

下流(河口)

その後何が起きているか(起こるか)？

誰もが繰り返す地域の本質的なニーズに沿っているか

主な原因は何か



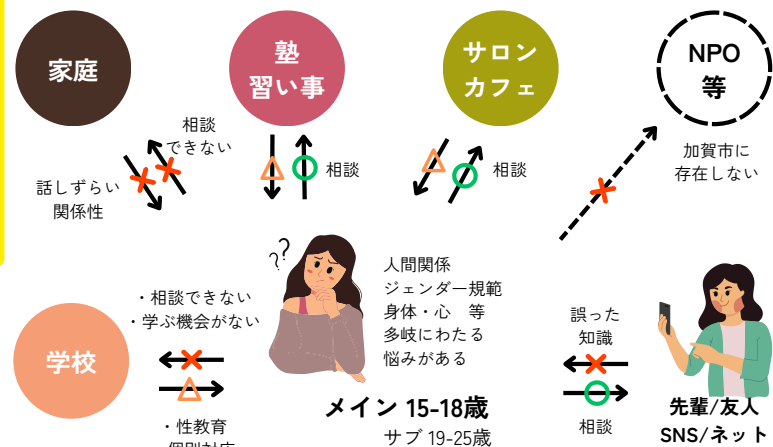
- ・先生・保護者自身も十分な性教育を受けていない
- ・性の話はタブーであると認識している



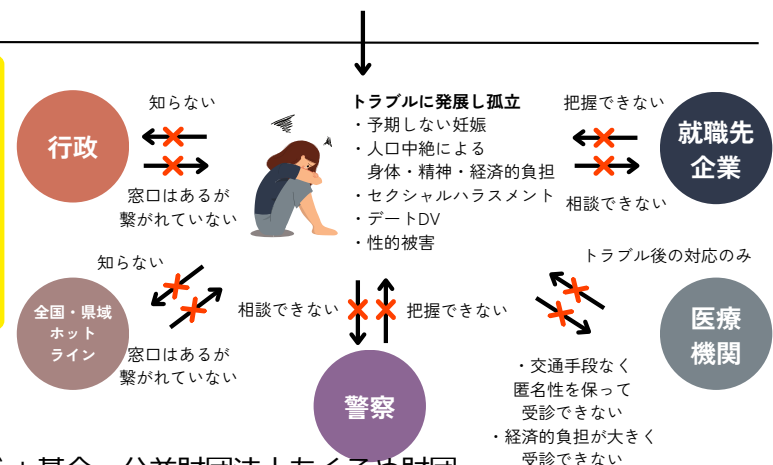
信頼できる第3の大人や同世代と共に学べる機会や場所・コミュニティ、その支援者がいない

若年女性の周辺にいる大人が正しい知識、伝え方、相談を受け支援に繋げる方法を知らない

どのように顕在化しているか



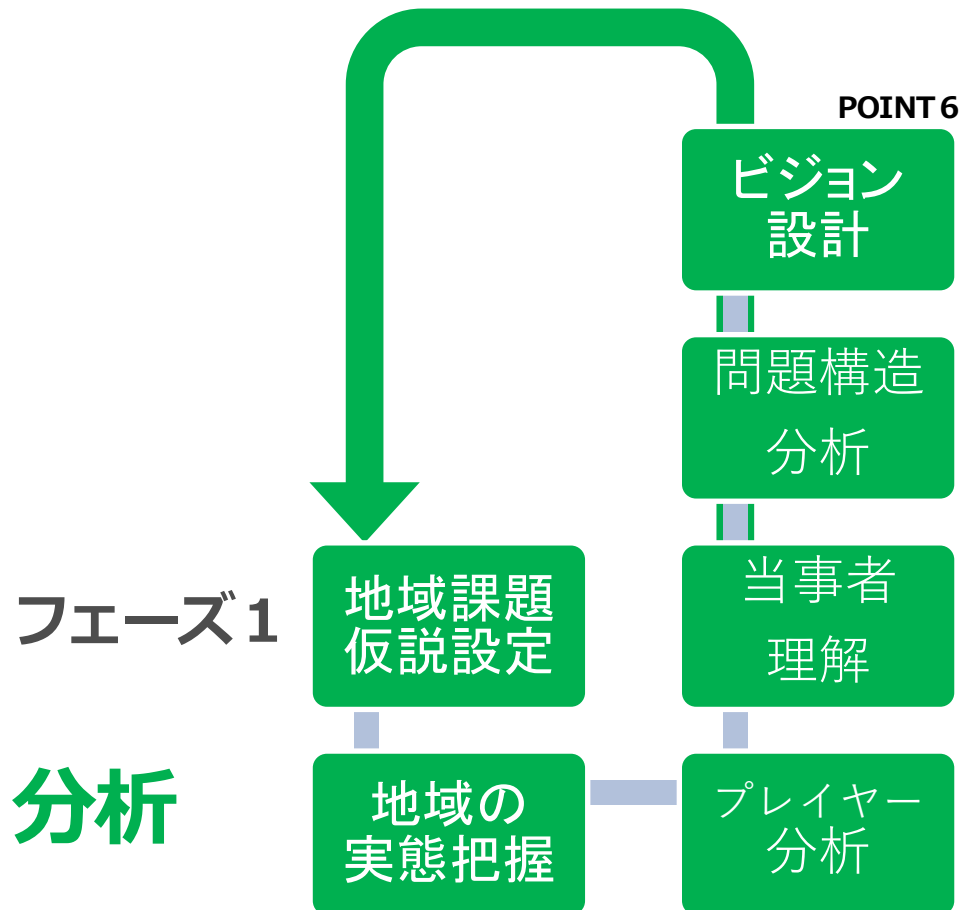
その後なにが起こっているか



その問題構造を支えている他プレイヤーの守備範囲は？

		①現状 ～発生している問題～	②実現仮説 ～どうすれば問題解決するのか / ビジョンが実現できるのか～	③-1 自組織	③-2 他プレイヤー
上流	1	母親への 養育費不払い	自治体の相談窓口や弁護士と 連携して、養育費不払いに対する 相談態勢を強化する	△	・行政 ・弁護士
	2	家計が苦しい	労働単価の高い職場を紹介する	△	・NPO法人●●●● ・ハローワーク
	3	親子のコミュニケーション 不足	親に対する カウンセリングを行う	◎	・NPO法人●●●●
中流	1	不登校	スクールカウンセラーと連携して 解決方法を探る	○	・学校
	2	学校の友達から 孤立	不登校児の居場所づくりをする	◎	・NPO法人●●●● ・NPO法人●●●●
	3	勉強に ついていけない	個別の学習支援を行う	○	・学校 ・株式会社●●●●
下流	1	反社会的勢力に 巻き込まれる	警察や学校と協力して 見回りを強化する	×	・警察 ・学校 ・NPO法人●●●●
	2	就職できず生活保護 対象者になる	就職支援をする	△	・NPO法人●●●● ・社会福祉協議会
	3	家庭崩壊になる	相談所を設置する	△	・社会福祉法人●●

フェーズ1 分析



⑥-Q1
地域での機運醸成のための
共有するキーワードは
適切であるか？

⑥-Q2
キャンペーンに集う
中心プレイヤー選定は
適切か？

⑥-Q3
システム全体を 体感+理屈で
理解・共有できる機会は用意さ
れているか

共感のエネルギー

力あわせる

ぐんま未来基金設立準備会

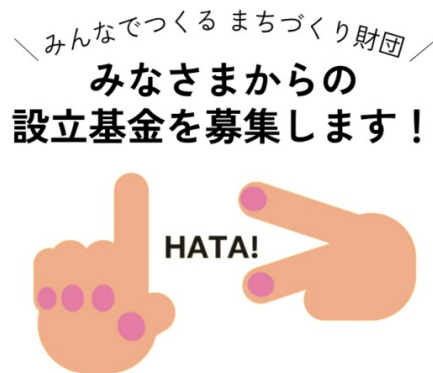


課題が社会に認知され行政施策に反映されたり、活動単独での寄付集めが可能になったり、ソーシャルビジネス化したり。多様な活動・事業が自立し課題解決に向けて自走可能になることで群馬の幸せの循環を生み出します。

未来を実現するエネルギー

みんなでHATAをあげよう！

みんなで作る まちづくり財団
HATA！設立準備委員会



目標人数 **500**人！

ワクワクする幡多の未来を、みんなで作ろう。幡多のワクワクするまちの未来を切り開くため、地域資源を活用し、エリア・組織・世代を飛び越えて協働する、みんなが主役のプロジェクトです。

役割を伝えるエネルギー

てらす

一般財団法人たかまつ讃岐てらす



『てらす』の名前には『地域を照らす』『一息つけるテラスのような場所になる』『地域の課題を気軽にしっかりと伝えてほしい=tell us』の意味を込めた。助成だけでなく、一緒に関わり『程よくおせっかいな存在』でありたい」と意気込む。

一般財団法人たかまつ讃岐てらす



●地域の課題を気軽にしっかりと伝えてほしい
tell usと声がかかるために

これからの地域の課題として「地域の担い手の不足、高齢化」「若者が地域外に出て帰ってこない」「公的資金の減少」等があると言われる中、高松や香川を主な対象エリアとして、自治会活動を支援するNPO法人「わがこと」代表理事の大美光代さんが、社会の課題解決に関与できるプラットフォームを作ろうと呼びかけ、昨年8月から準備を進めた。県内のNPO法人3団体の役員や元高松市教育長らが理事として、運営に携わる。

公益財団法人えひめ西条つながり基金



●ソーシャルビジネスを通じて
ネットワークを構築

一般社団法人リズカーレは「公益財団法人えひめ西条つながり基金」の設立・運営を行うほか、起業・移住支援、コワーキングスペースの運営等を行う。

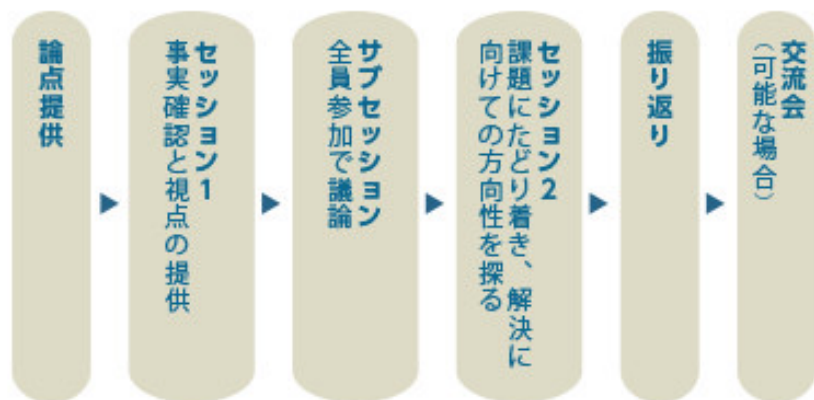
西条市を“よくしたい！”と思って活動している団体を支援するために、西条市や公益財団法人えひめ西条つながり基金など5団体が連携して、ソーシャルビジネス支援ネットワーク「さいじょうソーシャルビジネスサポーターズ」をスタート。

POINT 6 ビジョン設計

システム全体を 体感 + 理屈で理解・共有できる機会は用意されているか

沖縄式円卓会議

沖縄式地域円卓会議は、地域で起こっている「困り事」に立ち向かっている方々が、自ら第一声をあげることから始まります。多くのシンポジウムのように、成功事例の紹介から始めるのではなく、まずは統計等を元に事実に向き合い、参加者で共有することを大切にしています。具体的なテーマ決め、テーマの大きさを「食べられるサイズ」にすることが重要です。



テーマと参加者を決めるプロセスを経た後、当日は司会者と記録者により会議は進みます。司会者は、対話を持って地域の社会課題を解きほぐし、参加者の意識を「他人事から自分事（じぶんごと）」に変えていきます。記録者は、会議で発露された情報を構造化し、その記録は、今後の課題 解決に向けてのアプローチの基礎となります。



写真
香川の次世代を考える地域円卓会議



地域の「困り事」を、単独あるいは2者間で協議するのではなく3者以上のステークホルダー（利害関係者）で、意見交換をしていきます。この場所で、様々な事実・視点・評価・事例が提供されるため、地域の「困り事」は研ぎ澄まされ、「社会課題」へと昇華していきます。ここでの着席者は、テーマに基づき決定します。同時にテーマに関心のある方は誰でも参加できるオープンな会議です。

コミュニティ財団の仲間の実施した円卓会議

加賀市の子どもたちの自然体験を考える地域円卓会議

香川の次世代を考える地域円卓会議

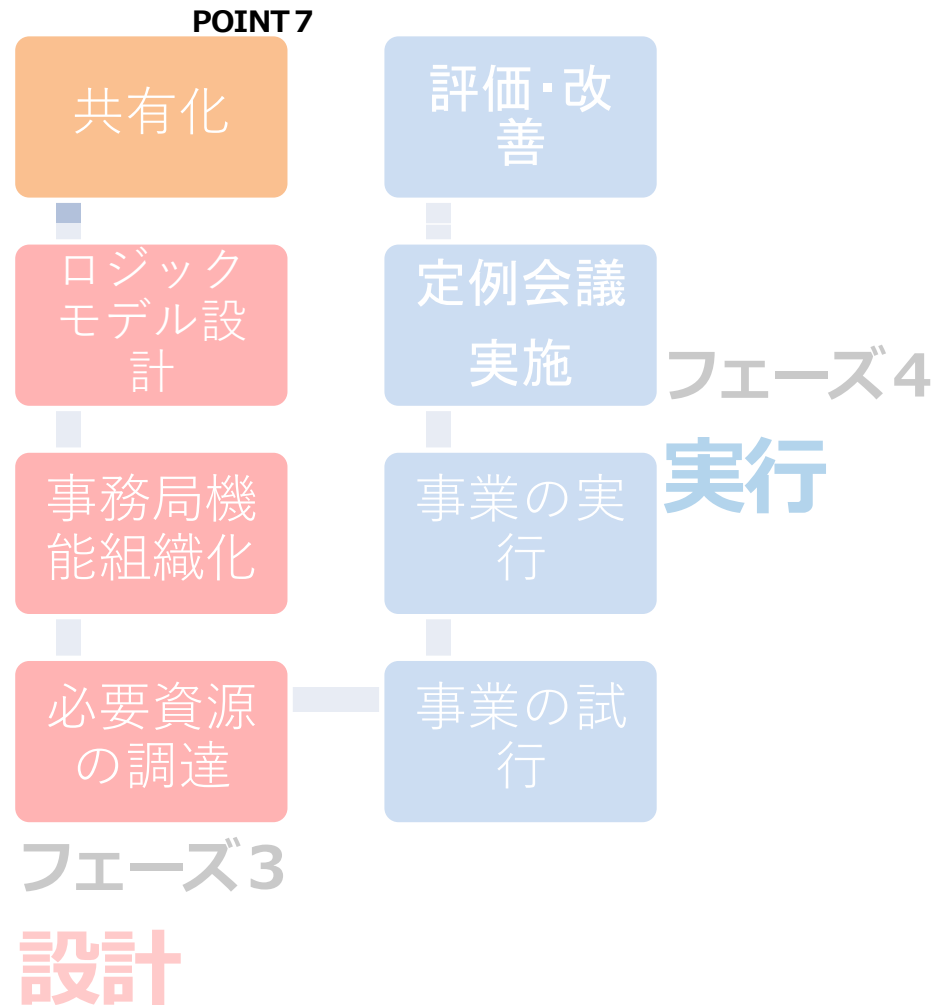
大泉町における外国籍児童の日本語教育について考える
円卓会議

フェーズ2 共有

フェーズ2 Q1
準備会の設計は適切か？

フェーズ2 Q2
共感を広げるための取り
組みは適切か？

フェーズ2 Q3
関係人口が広がる設計に
なっているか？



POINT 7 共有化 準備会の設計は適切か？

実行委員会型

みんなで作る まちづくり財団
HATA！ 設立準備委員会



地域のパン屋経営者、アーティスト、旧家をリノベーションしうまれた新しいコミュニティ、地元不動産屋さんという、過疎や少子高齢化など様々な課題をかかえる高知県幡多郡の課題をみんなで旗をあげる取り組み。みんなで作る まちづくり財団HATA！通称HATA！は幡多のワクワクするまちの未来を切り開くため、地域資源を活用し、エリア・組織・世代を飛び越えて協働する、みんなが主役のプロジェクトです。

事業拡張型

飛騨コミュニティ財団設立準備会
一般財団法人ひだ財団



高山市に事務所を構える中間支援団体「認定NPO法人まちづくりスポット」を母体にして、2021年からこれまで地域調査やコミュニティ財団についての勉強会を実施してきた中で、有志のメンバーが集まって設立準備会が始まりました。母体があるからこそ、地域で見逃されがちな問い「地域のスキマ」に着目し、地域のスキマを埋めようと、たくさんのチャレンジャーが飛騨地域で活動していることを可視化する準備会が進みました。

コンソーシアム型

ぐんま未来基金設立準備会



特定非営利活動法人市民立ぐんまNPOセンター、群馬NPO協議会、特定非営利活動法人NPOぐんまの3者のコンソーシアムにより実現。一人ひとりの夢や希望、願いは「きざし」小さな「きざし」をつなぎ、寄り添い、育む場として。「力あわせる」を合言葉に幸せの循環を生み出す仕組みをつくるために、老舗中間支援と若手がタッグを組み、問題にいち早く気づき課題解決のために試行錯誤している方々の「きざし」と捉え、寄り添い応援します。

Instagramフォロー1000人で広げる



● ワクワクする幡多の未来を みんなで作ろう

- ① 地域フォロー拡大を最優先
- ② 幡多郡の中でチャレンジする人たちの
10月を集めフェスト開催
- ③ まちの作戦会議
- ④ みんなのおもい大発表スペシャル

地域がつながるためのコミュニティツール



● 地域の課題を気軽にしっかりと伝えてほしい tell usと声がかかるために

- ① 「財団の名前、考えてもらえないですか？」
- ② トレードマークの共通化
- ③ 財団ロゴのSNSスタンプのための
アプリ制作
- ④ オンライン説明会
- ⑤ 気になるテーマの座談会



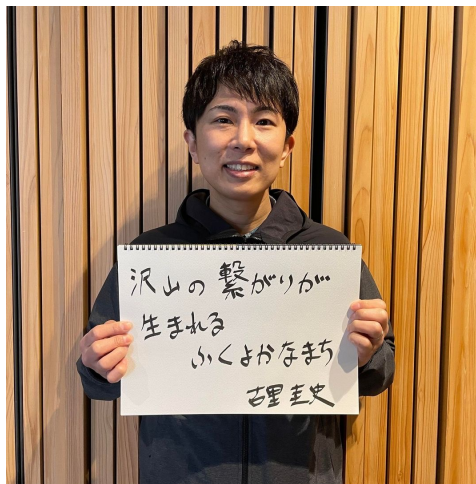
関係人口と寄付



コミュニティ財団は地理的な「コミュニティ＝地域」を特定して、複雑かつ重層的に絡み合う地域の諸課題を包括的な視座に立って事業対象とします。

予防的な対応を含む有効な事業に対して、資金をはじめとする資源を仲介・提供し、ひいてはその地域内の多様な背景をもつ住民の暮らしの質を高めるために貢献する組織、ともいえます。そのため基本財産から市民の小さな寄付で設立します。

仲間が広がる



多くのコミュニティ財団が最初の掲げる「地域で活動するプレイヤー」と「地域に関心があって、何か役に立ちたいと思ってる人」をつなぐ役割を果たすという機能。

そして、地域でチャレンジするプレイヤーたちをや孤立させない、みんなで支える仕組みを作ることを目指します。

そのため一人ひとりの声を紡ぎあげて、仲間を広げて行きます。

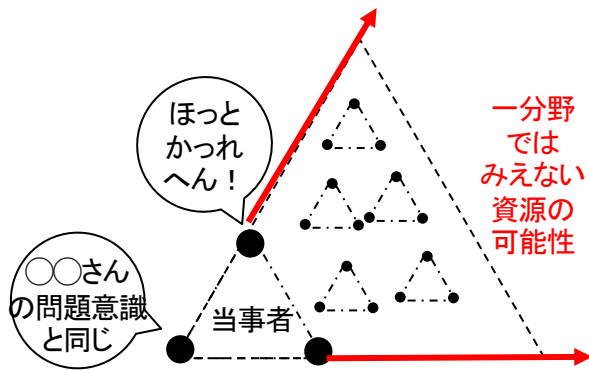
ただのイベントではなく 問いや課題を共に掘り下げる



例えばほくりくみらい基金は“未来の支度をしませんか？”というテーマで一緒に考えていきたいとイベントを開催しました。

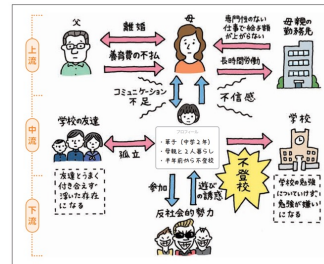
社会や環境が大きく変化していく中で、これからみんなが安心して学んだり働いたり幸せを感じていくためには、どんな風な未来支度をしていけば良いのか、考えましょう」と呼びかけて。このように、地域の小さな声を問いに変えて仲間が広がるコミュニティ形成を行います。

コミュニティ財団設立プロセスはその設立過程において地域にとってのコレクティブインパクトプロセスを経ていると考えています。特に「分析フェーズ」から、地域内での「共有フェーズ」が重要です。



一分野ではみえない資源の可能性

課題構造図での把握

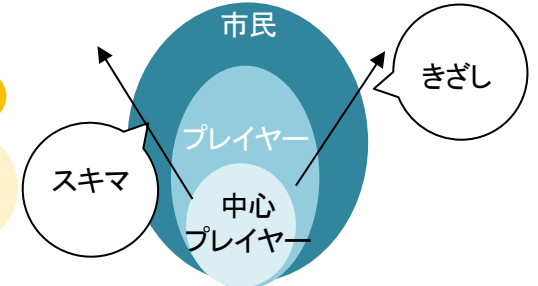


取り組むべき市民目線の解決策が共有

困難を抱える子ども・家庭の支援に関する取り組み



課題解決の視点が共有され財団設立と共通アジェンダ化加速



同じ視点の仲間がいると気づく

課題意識を見える化する

地域課題を新たに定義し直す

資料編

ワークシート

問い	現況	アクション・備考
地域や社会に届いていない声 は誰の声か？		
それはエリアや地域のどこに 影響を及ぼしているか？		
市民からの共感性の高い寄 付がなぜ必要なのか？		

問い	現況	アクション・備考
やり抜きたい & やり抜けそうな仲間が3人いるか？		
同じテーマに取り組むプレイヤーを把握しているか？		

ワークシート

POINT 3 プレイヤー分析

	自団体	他団体	行政	企業	地域	教育 機関	金融 機関
名称							
ビジョン ミッション							
主な対象							
サービス							
強み							
課題							
他主体との 関係性							

問い	当事者特定 ※ヒアリング未実施状態	当事者の声 ※ヒアリングしてみても
「高優先度の当事者特定」が できているか？		
当事者の声を聴き、実態を調 べられているか？		

問い	当事者特定 ※ヒアリング未実施状態	当事者の声 ※ヒアリングしてみても
本当に地域の本質的なニーズに沿っているのか？		

問い	現況
問題の下流～上流までを把握しているか？	

問い	現況
<p>誰もが繰返す地域の本質的なニーズに沿っているか？</p>	

上流 下流	発生している問題	どうすれば問題 解決できるの か？	自組織の対応	他プレイヤー
上流				
中流				
下流				

問い	現況	対応
地域での機運機運のための共有するキーワードは適切であるか？		
キャンペーンに集う中心プレイヤー選定は適切か？		
システム全体を 体感+理屈で理解・共有できる機会は用意されているか		